

「結婚の神的価値」

カナにおける婚宴の喜びのさなか、マリアだけがぶどう酒の不足に気づいた。人の役に立つことならどんな小さなことにでも気づくのは、マリアのように神を愛するがゆえ熱烈に隣人を思いつつ生きる人だけである。（拓631）

12月13日

結婚について話すには、まず夫婦愛から始めることが必要です。夫婦間の純粋な清い愛は尊いものですから、私は司祭として心から夫婦愛を

祝福します。カナの婚宴にキリストが出席されたことを見てもわかるように、カトリックの聖伝は結婚の神的価値を教えているからです。アレクサンドリアの聖キリルスも、「人間の世代の始まりを祝福するために主は婚宴に赴かれた」（アレクサンドリアの聖チリロ）と記しています。

婚姻は二人の身体を一体にする秘跡です。神学では、夫婦の体そのものが秘跡の質料であると強い表現を使いますが、配偶者相互のかけひのない愛を聖化し祝別される神は、夫婦が単に霊的一致だけでなく、肉体的一致をも実現するようお定めになったのです。この事実は、すべてのキリスト信者にとって軽視してはならない大切な意味を持っています。

創造主は、その全知の反映である理性と、もう一つの恵みである自由意

志を私たちに授けて、知り愛することができるようになりました。同時に、子を産む能力をお与えになりましたが、これは神の創造のみ業にあずかることにほかなりません。夫婦間の愛を使って新しい存在をこの世に与え、キリストの神秘体を増やすのは神のご計画なのです。性は決して恥ずかしいことはありません。恥ずかしいどころか、生命と愛を清く秩序づけるための神の賜物なのです。（知識の香24）